

## プラント状況確認結果(平成25年8月13日～8月20日)

平成25年 8月 20日

福島県原子力安全対策課

○ 平成25年8月13日～8月20日12時までの期間に、東京電力から福島第一原子力発電所1～4号機のプラント状況に関する報告内容について、県が確認した結果は次のとおりです。

⇒ この期間において、不具合等の連絡はありませんでした。

7月22日に、東京電力から福島第一原子力発電所タービン建屋東側における放射性物質に汚染された地下水が海(発電所港湾内)に拡散(漏えい)していると考えられるとの報告を受けた事象について、県の対応は[こちら](#)をご参照ください。

また、4月5日に発生した地下貯水槽からの汚染水漏えい事象の経過の詳細と現況については、[こちら](#)をご参照ください。

### (1) プラント状況(8月20日午前5時)

場所	目的	監視項目	1号機	2号機	3号機	4号機 <sup>※2</sup>
原子炉 <sup>※1</sup> (核燃料)	冷却	注水量 (m <sup>3</sup> /h)	4.3	5.3	5.3	—
		圧力容器 下部温度(°C)	<a href="#">33.1</a>	<a href="#">43.9</a>	<a href="#">42.5</a>	—
	未臨界確認	キセノン135濃度 <sup>※3</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> )(A系)	1.71×10 <sup>-3</sup>	検出限界未満	検出限界未満	—
圧力容器	水素爆発防止	窒素充填	充填中	充填中	充填中	—
格納容器		水素濃度 (A系)(体積%)	0.05	0.04	0.09	—
使用済燃料 プール	冷却	水温(°C)	31.0	30.3	28.6	37

※1 直近データのみ記載。詳細は[東京電力のページ](#)を御覧下さい。

※2 4号機は原子炉に燃料が入っていないため空欄。

※3 保安規定に定める制限値は、1 Bq/cm<sup>3</sup>以下である。

### (2) 発電所敷地境界におけるモニタリングポストの測定結果(8月20日午前10時)

最小 3.0(MP-1,6)～最大 6.1(MP-3) マイクロシーベルト/時 ⇒[計測地点の地図](#)

### (3) 発電所専用港内の海水中セシウム137濃度の測定結果(8月19日採取分)

最小 4.7(港湾口、6号機取水口前)～最大 140(3号機スクリーン(シルトフェンス内側)) Bq/ℓ

### (4) 発電所専用港外(沿岸)の海水中セシウム137濃度の測定結果(8月19日採取分)

5,6号機放水口北側に30m: 検出限界未満

1～4号機放水口から南側に1.3km: 検出限界未満 ※検出限界値は約1.5 Bq/ℓ

### (5) 発電所敷地内の大気中セシウム137濃度の測定結果(8月19日採取分)

西門: 検出限界未満 ※検出限界値は約3×10<sup>-7</sup> Bq/cm<sup>3</sup>

### (6) 1～6号機タービン建屋付近のサブドレン水中セシウム137濃度の測定結果(8月19日採取分)

最小 検出限界未満(4号機) ~ 最大 0.34(1号機) Bq/cm<sup>3</sup> ※検出限界値は約0.02 Bq/cm<sup>3</sup>

【参考事項】

- 8月19日 9時50分頃、発電所敷地内H4エリアに設置されている濃縮塩水を保管しているタンクの堰のドレン弁から水が漏れいしているのを発見。その後、ドレン弁の閉止により堰外への漏れいは停止。漏れい量は300トンで、漏れい原因については調査中。
- 8月19日 10時04分頃、免震重要棟前に設置してある連続ダストモニタにおいて警報が発生し、構内における全面マスク着用を指示。その後、連続ダストモニタ指示値は、警報設定値( $1.0 \times 10^{-4}$ Bq/cm<sup>3</sup>)及びマスク着用基準値( $2.0 \times 10^{-4}$ Bq/cm<sup>3</sup>)以内となっているものの、敷地境界に位置するモニタリングポストの指示値等に変動が見られたため、構内における全面マスク着用を継続。また、2人の身体汚染を確認したため、除染を行い、ホールボディカウンターによる検査を行った結果、内部取り込みはなかった。プラント状況に有意な変動はない。原因については調査中。

(問い合わせ 024-521-1917)